

posteriorly convergent striae; side of the segment except the anterior area longitudinally coarsely striate. Abdominal tergites practically impunctate, pygidial area with a few scattered rounded punctures, sternites before each posterior margin scattered with a few distinct punctures, apical half of end sternite strongly and densely punctured. Mat spaces on 2nd sternite indistinct.

Black, Mandibles semitransparent white with apices brownish black; antennae apically somewhat brownish, joints 4-12 beneath ferruginous, tegulae of wings externally slightly brownish. Abdomen at the hind margin of each segment discoloured, membranous and appearing pale brownish. Anterior margin of fore tibiae, all tibial spurs and all tarsal joints beneath ferruginous brown. Wings pale brownish yellow, apical margins feebly clouded, veins brown or dark brown.

♂. Unknown.

Holotype: ♀. Japan (Towada), 23. VIII. 1957, K. Shimoyama leg. and in the writer's collection.

Comparative notes. The present species is very distinct in having the non-maculated body, the peculiar structure of the clypeus and impunctate abdominal tergites and can easily be distinguished from any of the known species of the subgenus.

Finally, I express my sincere gratitude to Mr. K. Shimoyama for his kind help given incessantly to my study. I am also indebted much to Mr. Y. Murakami for consulting some literature.

Explanation of Plate 25

Fig. 1. *Ectemnius (Nesocrabro) shimoyamai* sp. nov., ♀.

Fig. 2. Head seen in front.

Fig. 3. The 2nd-4th joints of the antenna.

Fig. 4. Pygidial area.

本邦におけるオオニジュウヤホシテントウの南限と ニジュウヤホシテントウの北限について

安 江 安 宣

オオニジュウヤホシテントウ *Epilachna vigintioctomaculata* Motchulsky は Dieke (1947) のモノグラフによる "Kagoshima" がわが国における分布の最南限であつたが、鹿児島市は周知のように国内有数の温暖な地であるから、冷涼な環境を好む本種の棲息は考えられず、該標本が同県内のどこで採集されたかは詳らかでなかつた。筆者は 1958 年 9 月、同県霧島村霧島神宮下 (北緯 31°51', 標高 420 m) のナス畑で同じ株に次種と混棲しているのを採集した。

ニジュウヤホシテントウ *Epilachna sparsa orientalis* Dieke の本州太平洋岸 (内陸部をのぞく) における北限は中田 (1950) による 茨城県鹿島郡大野村奈良毛 (北緯 36°0') であつたが、筆者は 1958 年 8 月に水戸市内 (北緯 36°23') のナス、ホホヅキを加害しているのを発見した。また本種の日本海沿岸における北限は 1918 年 J. E. A. Lewis が採集をした石川県江沼郡山中町 (安江, 1955) であつたが、筆者は 1957 年 8 月に金沢市東部 (北緯 36°33') の高台にある金沢大学薬草園や附近の家庭菜園のナス科植物で繁殖しているのみ

つけた。その直後に金沢大学理学部生物学教室に保存されている旧第4高等学校時代からの甲虫標本のなかに本種のあることに気がついたが、産地や採集年月日不明のため該標本が金沢市内でとられたものか否かは断定できない。

ちなみに本州全般からみてニジュウヤホシテントウの分布最北限は現在までの調査では栃木県塩谷郡矢板町(北緯36°48')とされており、筆者もまた直接これを確認している。最後に種々お世話になつた金沢大学堀克重、木村久吉両氏及び鹿児島大学渋谷正健、前原宏両氏に深謝する。

新 著 紹 介

**Krombein, Karl V. et al. Hymenoptera of America
North of Mexico—Synoptic Catalog. First Supplement
(Agriculture monograph No. 2).**

U. S. Department of Agriculture, Washington, D. C.
September 1958. Price \$ 1.75.

The “Hymenoptera of America North of Mexico—Synoptic Catalog” が出版されたのは 1951 年 7 月であつたが、今回その追補第 1 編 305 頁が出版された。僅か 5 年間にこれだけの追補改訂を要するとは全く驚異で、片手間に昆虫の分類を研究することの如何に困難であるかを物語っている。

追補第 1 編の準備は Krombein 氏の編纂の許に進められたが、その内容の分担を示せば次の如くである。

- Karl V. Krombein : 凡例の部分、有劔類及び全般の編集。
- B. D. Burks : ハバチ類及び小蜂類。
- C. F. W. Muesebeck : コマユバチ科及びクロバチ類。
- Marion R. Smith : アリ科。
- Luella M. Walkley : ヤセバチ科、ヒメバチ科及びカギバラバチ科。
- L. H. Weld : タマバチ類。

本書には 1950 年以降 1956 年までに発表された膜翅目に関する北米の文献があまねく盛られ、前巻の正誤、分布の追加、新しく記録された寄主、食餌昆虫、訪花記録、生態や分類に関係のある文献の記録、属・亜属名の変更、異名、新名等が詳細に記してある。題名は北米の膜翅目目録であるが、膜翅目の分類に興味を有する者にとっては世界的に重要な文献であり、それに膜翅目は他の目とも直接関係深い目であるから、広く純正昆虫学者にも応用昆虫学者にも、更に図書館や研究機関にも必要欠くことのできない貴重な書物である。

私が 1956 年 U. S. National Museum で膜翅目研究室に滞在していた時、Krombein 氏を主任とする上記全室員は本書の原稿作製に熱中しておられたが、ここにその努力が酬いられて上梓されたことは世界の昆虫学界の為に芽出度いことであり、その功績を多としたい。日本でも近い将来このような目録を編纂したいものである。(安松京三)。